（様式１）

１　自己評価及び外部評価結果

作成日　　令和　7　年　1　月　24　日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3492700079		
法人名	株式会社　エポカケアサービス		
事業所名	グループホーム大野みどりの家		
所在地	広島県廿日市市下の浜5-5 （電話）0829-30-6489		
自己評価作成日	令和6年12月23日	評価結果市町受理日	令和7年2月17日

※　事業所の基本情報は，介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先ＵＲＬ	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3492700079-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和7年1月14日

【事業所が特に力を入れている点，アピールしたい点（事業所記入）】

「ゆっくり　いっしょに　たのしく」をモットーに入居者様が心地よく過ごされている。また、家庭的な雰囲気の中で認知症の対応に気を配りながら行事、お散歩等で季節を感じて頂いている。コロナウイルス蔓延により、外出は控えめではあるが、ホーム内での行事でその季節ごとの行事を行い、その時々で季節を感じて頂いている。また、外食を兼ねて紅葉見学に行く等、少しずつ外出も再開しつつある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

1年前に移転し３階ユニットの増設に伴う職員の入職時には、事業所の基本方針「ゆっくり、いっしょに、たのしく」を認知症介護として具体的に掘り下げて説明し、全職員に浸透させている。日頃から「今しか行けない所、今しか出来ない事」を「今、叶えよう」と本人の要望を大切にし、昔の職場付近へのドライブや、家族との外食・外泊などをサポートしている。かかりつけ医は、緊急時や体調変化時も24時間の往診や救急車要請も行い、職員は救急隊への情報提供書にて適切な医療に繋げている。終末期は可能な限り共に生活した皆の声を感じながら共同フロアで過ごす支援にも取り組んでいる。調理専門職員を配置し、美味しさ・目を惹く盛り付け等、手作りならではの食事を提供し、生活する中で利用者の気持ちの変化を汲みとり「自分が暮らしたいと思える場所作り」に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項　目（　　1F　　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
Ⅰ　理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり，管理者と職員は，その理念を共有して実践につなげている。	「ゆっくり　いっしょに　たのしく」をモットーに入居者様が心地よく過ごされている。また、家庭的な雰囲気の中で認知症の対応に気を配りながら行事、お散歩等で季節を感じて頂いている。	３階ユニットの増設に伴う職員の入職時にも法人代表から、基本理念を具体的に掘り下げて日頃のケアに活かせるよう説明があり、全職員に浸透させている。ユニット年間目標と職員年間目標を掲げ、定期的に本部職員・管理者との個人面談にて振り返りを行い、理念の実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう，事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	移転して1年が経ち、地域との交流も少しずつ関わり始めている。運営推進会議からとんど焼きや獅子舞のご案内を頂き参加をさせて頂いている。	運営推進会議の場で地域の役員から地域情報を多数得て、利用者と共に夏祭りや百歳体操に参加している。獅子舞はコースを変更して事業所に立ち寄り、また青少年によるソーラン節踊りの来所など、移転後1年の間に地域との交流が増えている。職員は年４回の地域清掃にも参加し、アサリのお裾分け等の交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は，実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を，地域の人々に向けて活かしている。	ご家族の相談事は随時行い、地域の方には運営推進会議等で地域のお困りごとの相談に乗っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では，利用者やサービスの実際，評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い，そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催し、行政・民生委員の方々に参加頂いている。問題点・活動状況を資料にまとめ報告し参加者から助言やご意見を頂きより良いサービスができる様にしている。地域の問題や情報も頂いている。	３ユニット合同で開催し、各地域の民生委員・組長・児童福祉部役員・地域包括支援センター等、多数の参加がある。事業所の状況、取り組み、ヒヤリハットなど伝え、参加者からは地域行事、地域サロン、ボランティアなどの地域情報を得ている。地域から一緒に地域活性化に取り組みたいとの誘いがある。	参加者が意見を出し易いように事前に準備し、沢山の地域情報を得て、利用者がとんど祭りや百歳体操に参加しており事業所はメリハリのある生活に繋げている。議事録はこれらの取り組みを分かり易くまとめてあり今後は、全家族にも議事録を配布し、引き続き本人を共に支え合う関係性や参加に繋がるよう期待する。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り，事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら，協力関係を築くように取組んでいる。	担当者から、最新の情報を頂いたり困難な事例等について相談できる関係にある。	昨年の移転や３階ユニットの増設に伴い行政担当者との関わる機会が多くあり、いつでも相談できる関係性を築いている。地域包括支援センターとは、運営推進会議参加・百歳体操・入居相談・地域の個別相談など協力関係を築いている。議事録や家族通信の配布等を行い連携体制が継続するよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項　目（　　1F　　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
6	5	**○身体拘束をしないケアの実践** 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており，玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	フロアと玄関を出入りするドアをパスキーにしており、職員以外は出入りできない。しかし、職員の付き添いによって１F，２F，3Fを自由に行き来できるように心がけている。身体拘束については一定の書式もあり、身体拘束防止委員会も設置し、身体拘束ゼロへの努力・工夫をしている。	全体ミーティング時に身体拘束適正化委員会を３か月に１回行い、テキストの事例を通して意見を出し合い理解を深め、身体拘束ゼロへの努力と工夫を周知徹底させている。フロアミーティングでは、言葉使いに関して個々が振り返りを行っており、フロアリーダー中心に、心身の拘束を行わないケアに取り組んでいる。	
7		**○虐待の防止の徹底** 管理者や職員は，高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち，利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い，防止に努めている。	毎年、虐待防止のホーム内研修を行っている。また虐待防止委員会を設置し、虐待防止に取り組んでいる。		
8		**○権利擁護に関する制度の理解と活用** 管理者や職員は，日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち，個々の必要性を関係者と話し合い，それらを活用できるよう支援している。	成年後見人を立てて入居されている方もおられる。		
9		**○契約に関する説明と納得** 契約の締結，解約又は改定等の際は，利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね，十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご家族あるいはご本人と契約書を読み合わせてその都度疑問点、不安を尋ね説明・納得を図っている。		
10	6	**○運営に関する利用者，家族等意見の反映** 利用者や家族等が意見，要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け，それらを運営に反映させている。	契約書には、苦情申し立て方法を明記し、玄関には意見箱を設置している。また遠方にいるご家族にはメールにてご意見をお聞きしている。	家族は面会時に、次の住み家や利用に伴う費用など管理者に直接相談しており、管理者は家族の気持ちに寄り添いながら丁寧な対応に努めている。家族通信のＱＲコードから家族アンケートができる体制もある。利用者の要望で外出先を決める等、職員は「利用者が今、行ける所、出来る事」の実現に努めている。	

自己評価	外部評価	項　目（　　1F　　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は，運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け，反映させている。	フロアミーティング、１F,2F,3F共同の全体ミーティングを月に１回行い、職員の意見や提案を聞き情報やケアの統一を図っている。本社職員も出席し、意見の吸い上げも図っている。	職員の意見や要望は、本社職員・管理者との個人面談時や、内容によりミーティングで話し合っている。管理者とその都度アイディアを出し合う事が多く、安全に靴が履けるよう玄関に椅子を置いたり、駐車場のセンサーライトの設置、おでんの日はおでんののれんをかける等、職員の意見を現場に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は，管理者や職員個々の努力や実績，勤務状況を把握し，給与水準，労働時間，やりがいなど，各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年一回の人事考課、面接を行い顧問による職員面談も随時行っている。要望はその都度聞き対応している。また、法人として顧問面談を取り入れておりメンタルヘルスの面でも毎年面談を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は，管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し，法人内外の研修を受ける機会の確保や，働きながらトレーニングしていくことを進めている。	月に一回のホーム内研修、新人研修、ケア向上勉強会、講演会等に参加することによりレベルアップを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は，管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり，ネットワークづくりや勉強会，相互訪問等の活動を通じて，サービスの質を向上させていく取組みをしている。	廿日市のグループホームの会合や職員の相互研修、情報交換を行っている。		
Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で，本人が困っていること，不安なこと，要望等に耳を傾けながら，本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人の思いを汲み取りながら、十分話し合っている。相談し安心、信頼できる関係作りに務めている。		

自己評価	外部評価	項　目（　　1F　　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で，家族等が困っていること，不安なこと，要望等に耳を傾けながら，関係づくりに努めている。	入居見学の時点でご家族の意向・希望の把握、不安な事等に対して話し合うようにしている。入居後も面会時など話し合える時間を持ちコミュニケーションのとれる関係作りを目指している。各フロアに携帯が有りいつでも話し合えることができるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で，本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め，他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人、ご家族との要望、ご意見をしっかりとお聞きしている。その際に生活歴や趣味などをお聞きしアセスメントをしミーティングで報告、話し合いをしている。そこで関わり方、必要としている支援を出し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は，本人を介護される一方の立場に置かず，暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	出来ることを一緒にし、満足感、安心感、充実感、存在感を持って頂きながら信頼関係を得ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は，家族を支援される一方の立場に置かず，本人と家族の絆を大切にしながら，共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族には、毎月のご様子のお手紙、電話、面会時等で細かいことも含めて報告して、ともに本人を支える関係作りをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう，支援に努めている。	携帯電話を持参され自由にご家族に電話をされている方もいる。また、面会を実施し、ご家族やご友人と交流されている。	事業所の電話で、或いは携帯電話で家族といつでも電話できるように充電や預かる等の支援をしている。家族との外出・外泊がスムーズに行えるよう配慮している。昔の勤務先付近をドライブして懐かしんだり、職員と別フロアに移動し、顔馴染みの利用者と会うなど、馴染みの関係性が継続するよう支援している。	

自己評価	外部評価	項　目（　　1F　　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し，一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い，支え合えるような支援に努めている。	季節行事や定期的なイベント行事で各自が活躍できる場を提供している。共に支え合いながら、共に楽しみ、共に暮らす仲間として認め合っている。職員も一緒に楽しみながら、それを支えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても，これまでの関係性を大切にしながら，必要に応じて本人・家族の経過をフォローし，相談や支援に努めている。	いつでも電話等で相談して頂くことができる支援をしている。また、ご家族と出会った際は、声を掛け挨拶をしている。		
Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望，意向の把握に努めている。困難な場合は，本人本位に検討している。	本人様の思いを汲み取りながら、ミーティングで共有するようにしている。ご家族には面会、電話等でお話をお聞きしている。	サービス開始時に本人・家族や関係者から聞き取った情報をもとに、共に生活する中で新たな要望や情報を得て、ファイルに記載している。日によって心境の変化はあるが、表情・仕草・状況から本人が望んでいる事を本人本位に推測し、申し送りや生活記録にて共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方，生活環境，これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族、ご本人との聞き取りやアセスメントから把握するようにしている。情報提供があった場合もミーティング、連絡ノートにて伝達している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方，心身状態，有する力等の現状の把握に努めている。	ケアアプリ、連絡ノート等を活用し心身状態や生活ペースを把握し、共有するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項　目（　　1F　　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について，本人，家族，必要な関係者と話し合い，それぞれの意見やアイデアを反映し，現状に即した介護計画を作成している。	ケアプランを活用しながら職員がアイディアを出しケアの共有を図っている。担当者会議ではミーティングの議題を挙げ職員全体で話し合いを行っている。また毎日モニタリングを行い現状に即したケアプランとなるよう配慮している。	本人・家族の思いをもとに、多方面の情報をアセスメントし、家族や職員と話しあって介護計画書を作成している。変化する状況に合わせたケアの提案や「今できるその人ならではの望みの実現」を大切にし、家族の役割も伝える介護計画作成に努めている、定期的なモニタリングにて必要時、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果，気づきや工夫を個別記録に記入し，職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日個別に記録をつけ、フロアで共有している。気付きやケアの工夫は連絡ノートに記入し申し送っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況，その時々に生まれるニーズに対応して，既存のサービスに捉われない，柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	グループホーム３ユニットでイベントを行っている。またホーム行事やボランティアが来られた日に行き来する等、日頃から交流を盛んに行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し，本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進会議で地域の民生委員の方々の提案や助言を頂き交流をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は，本人及び家族等の希望を大切にし，納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら，適切な医療を受けられるように支援している。	月に２回の定期往診と状態変化時の主治医への連絡を随時行っており、緊急時も迅速な対応ができている。ご家族の希望で専門医へ受診している。その際はご家族、又は職員が付き添って受診している。	かかりつけ医との２４時間連携体制を説明し、本人・家族が納得後、かかりつけ医を選択している。月２回の訪問診療時には各フロアの看護師が同行し、医師からの情報は連携シートにて介護に繋げている。認知症専門医療機関への通院など必要に応じて管理者が同行し、家族と協力しながら適切な受診を支援している。	

自己評価	外部評価	項　目（　　1F　　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は，日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを，職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し，個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	職員とかかりつけ医に状況をその都度報告し、適切な受診や看護を受けられるよう支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際，安心して治療できるように，また，できるだけ早期に退院できるように，病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は，そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に病院のMSW（医療、ソーシャルワーカー）と連携を取り密に連絡を取っている。職員も訪問し状況の把握、相談、情報交換をしている。ご家族とも相談し情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について，早い段階から本人・家族等と話し合いを行い，事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し，地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	かかりつけ医と十分な連携を取りながら対応している。またご家族、ご本人との考え、方針を汲み取りながらその都度話し合いをし思いを確認している。	契約時に医療に関する事前確認書にて事業所の方針を伝え、状態変化時には本人・家族の意向を尊重している。医師の「何とかここで」の方針のもと、医療関係者・家族と連携をとり、時には好きな歌手のＣＤを流すなど穏やかな看取りケアに努めている。転院の場合も本人家族の思いにそった支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて，全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い，実践力を身に付けている。	急変時の職員の連携はよく取れているが、新入職員も増えたため繰り返し研修する必要がある。		
35	13	○災害対策 火災や地震，水害等の災害時に，昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに，地域との協力体制を築いている。	年２回の避難訓練を行っている。また、防災委員会を設置しており、地域の消防団との連携を取り協力体制を築いている。	火災・自然災害に備え消防団の助言を得て夜間想定を含め、利用者・職員と避難訓練を行っている。避難終了までの時間や手順の振り返りを毎回行い、初期消火・通報・避難経路と誘導・各ユニットの一次避難所など全職員に浸透するよう努め、垂直避難訓練も行っている。備蓄は本社の協力もあり有事に備えている。	

自己評価	外部評価	項　目（　　1F　　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し，誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	研修にて職員に周知徹底できるようにしている。ご本人の尊厳を傷つけない声掛けをしている。入居者様の情報を他の入居者様の前で話さないようにしている。	年1回、尊厳とプライバシー確保の研修を行い、業務優先ではなく「何がしたいのか」を本人本位に想像しながら言葉かけに努めている。呼び名、脅しや否定的な言葉や表現、気持ちの余裕についてなど、経験年数や役職に関わらず互いに注意し合い意識を高めている。申し送り時もプライバシーの確保に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり，自己決定できるように働きかけている。	思い出の場所や自宅は行ってみたり、誕生日プレゼントの希望をお聞きしたり、自己決定できる場を日頃から心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく，一人ひとりのペースを大切にし，その日をどのように過ごしたいか，希望にそって支援している。	業務優先ではなく、ご本人が何をしたいかを大切にしている。また１日どのように過ごしたいのかをお聞きするようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	2ヶ月に1回の訪問理美容師による、カット・パーマ・毛染め等希望を聞いて行っている。コーディネートや季節感の服装を支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう，一人ひとりの好みや力を活かしながら，利用者と職員が一緒に準備や食事，片付けをしている。	朝食、昼食は職員が献立を考え、出来る入居者様は野菜の皮むき、カット、配膳、盛り付け、味見等を手伝って頂いている。夕食は外注したものを提供している。食事はできる限り職員、入居者様と一緒に談笑しながら食べている。	調理担当職員は、盛り付け・味付け・飲み込みなどを十分に配慮し、朝昼食を提供している。職員は献立に合わせておでんやラーメンののれんを下げ、利用者はエプロンを着けて職員と共に出来る事を手伝っている。誕生会のケーキや紅葉狩り時のうどん外食、道の駅での海鮮どんぶり等、多様な食支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項　目（　　1F　　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	食事、水分摂取量を毎日の記録表に記入している。嚥下状態の悪い方はトロミをつけたり、刻み食、ミキサー食、エンシュア等を提供し、必要な栄養確保に気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	朝・昼・夕食後、本人用の歯ブラシで口腔ケアをし、ご自分で出来ない方は援助する。就寝時は義歯ケースの中に義歯を入れ洗浄している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	自尊心を傷つけない様、声掛けをしトイレを促している。排泄チェック表等を活用し排泄パターンを把握し誘導している。	排泄チェック表は職員の動線上にあるボードにその都度、ローマ字で記載し、把握しやすく早めの声かけ等に活用している。体調悪化で一時的にオムツ使用になった時はポータブルトイレを使用する等、自立に向け段階的なケアを行っている。排泄用品の扱いが自立している場合も適切な使用となるよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	身体を動かしたり水分補給に心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	週2回の入浴を目途に、個々に応じた支援を行っている。また、入浴拒否の強い方等には誘導への声掛けを職員を変えながら行って入浴して頂いている。	浴室は、職員による介助が十分に出来る広さとなっており床暖房や手すり、可動式浴槽設置にて安全面にも配慮している。個々の支援方法を話し合い、気持ちの変化をみながら無理強いをせず、気持ち良い入浴となるよう昔話を聴くなど工夫している。足拭きマットは一人ひとり交換し皮膚感染にも配慮している。	

自己評価	外部評価	項　目（　　1F　　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて，休息したり，安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々のペースで生活習慣や状況に応じて休んで頂いている。空調管理にも気を付けながら快適に休んで頂いている。眠れない方には、お茶やホットミルクを飲んだり、お話をされたりして過ごしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用，用法や用量について理解しており，服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	かかりつけ医、薬局と連携を取りながら細かく観察し伝達している。薬の用法、用量が変わった際は申し送り、連絡ノート等にて職員同士迅速に対応している。		
48		○役割，楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように，一人ひとりの生活歴や力を活かした役割，嗜好品，楽しみごと，気分転換等の支援をしている。	ご家族、ご本人から趣味、嗜好品、楽しみ事を日々の会話の中でお聞きし体調に合わせ実現できるように努めている。他のフロアに行ったり洗濯物を干す等、気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって，戸外に出かけられるよう支援に努めている。また，普段は行けないような場所でも，本人の希望を把握し，家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	近隣の公園への散歩や、お花見等のドライブ外出等、季節を感じることが出来るように支援を行っている。	外出行事として、錦帯橋や蜂ケ峰総合公園に行き、景色や動物の餌やり・触れる等、非日常的な外出の機会がある。普段は散歩、行き先の要望に沿ったドライブ、或いは職員とゴミ捨てや風に当りながら外気浴を行っている。墓参りやカラオケに行く等の家族協力があり、スムーズな外出になるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は，本人がお金を持つことの大切さを理解しており，一人ひとりの希望や力に応じて，お金を所持したり使えるように支援している。	ホームでは、所持金は預からない事としている。本人様の買い物等は、一旦立て替え、まとめてご家族に請求する形をとっている。所持することで安心感のある方にはご家族了承のうえ自己管理して頂いている。		

自己評価	外部評価	項　目（　　1F　　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり，手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は自由に使用でき、手紙も書かれている方がいる。ご自分でできない方はお手伝いをさせて頂いている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等）が，利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音，光，色，広さ，温度など）がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節を感じて頂くように季節の花や飾りつけをし、居心地よく過ごして頂いている。また、清潔であるよう掃除を徹底し行っている。廊下、フロア内には外出時、イベント行事時の写真を掲示している。	個々が望む過ごし方が出来るように机を配置し、テレビ・新聞を見たり、隣の人とお喋りしながら調理の気配を感じる等、家庭的な雰囲気作りに努めている。フロアから季節毎に変化する桜の大木や海を鑑賞し、壁には掲示物委員が行事写真や日々の笑顔写真を貼り、家族との会話のきっかけにもなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で，独りになれたり，気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	好きな音楽番組を見られたり、ぬり絵や脳トレレクを行ったりと共用空間で出来る限り、思い思いに過ごせる空間を提供している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は，本人や家族と相談しながら，使い慣れたものや好みのものを活かして，本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人、ご家族との要望、ご意見をしっかりとお聞きし、馴染みの使い慣れた物を置き居心地の良い空間作りを心がけている。また入居者様が安全に過ごせるよう整理整頓に気を付けている。	使い慣れた家具に家族写真・鏡・ぬいぐるみ等を置き、居室は本人が迷わないように整理整頓している。日中は布団を広げ窓からの陽に当てる等、細やかな支援に努めている。転倒予防に配慮した家具の配置や居室入口の縦手すりの設置、本人の状況にあったマットレスを導入する等、本人本位の居室作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして，安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ベッドセンサーの使用やセンサーマット、手摺、エレベーター等があり安全且つ快適に過ごせる様にしている。		

Ⅴ アウトカム項目（　　1F　　）← 左記（　）内へユニット名を記入願います			
56	職員は，利用者の思いや願い，暮らし方の意向を掴んでいる。		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の3分の2くらいの
			③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が，一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は，一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は，職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は，戸外への行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
		○	③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は，その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により，安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
63	職員は，家族が困っていること，不安なこと，求めていることをよく聴いており，信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の3分の2くらいと
			③家族の3分の1くらいと
			④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
65	運営推進会議を通して，地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり，事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は，活き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の3分の2くらいが
			③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の3分の2くらいが
			③家族等の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項　目（　2F　　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
Ⅰ　理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり，管理者と職員は，その理念を共有して実践につなげている。	「ゆっくり　いっしょに　たのしく」をモットーに入居者様が心地よく過ごされている。また、家庭的な雰囲気の中で認知症の対応に気を配りながら行事、お散歩等で季節を感じて頂いている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう，事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	移転して1年が経ち、地域との交流も少しずつ関わり始めている。運営推進会議からとんど焼きや獅子舞のご案内を頂き参加をさせて頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は，実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を，地域の人々に向けて活かしている。	ご家族の相談事は随時行い、地域の方には運営推進会議等で地域のお困りごとの相談に乗っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では，利用者やサービスの実際，評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い，そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催し、行政・民生委員の方々に参加頂いている。問題点・活動状況を資料にまとめ報告し参加者から助言やご意見を頂きより良いサービスができる様にしている。地域の問題や情報も頂いている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り，事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら，協力関係を築くように取組んでいる。	担当者から、最新の情報を頂いたり困難な事例等について相談できる関係にある。		

自己評価	外部評価	項　目（　2F　　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	**〇身体拘束をしないケアの実践** 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており，玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	フロアと玄関を出入りするドアをパスキーにしており、職員以外は出入りできない。しかし、職員の付き添いによって１F，２F，3Fを自由に行き来できるように心がけている。身体拘束については一定の書式もあり、身体拘束防止委員会も設置し、身体拘束ゼロへの努力・工夫をする。		
7		**〇虐待の防止の徹底** 管理者や職員は，高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち，利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い，防止に努めている。	毎年、虐待防止のホーム内研修を行っている。また虐待防止委員会を設置し、虐待防止に取り組んでいる。		
8		**〇権利擁護に関する制度の理解と活用** 管理者や職員は，日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち，個々の必要性を関係者と話し合い，それらを活用できるよう支援している。	成年後見人を立てて入居されている方もおられる。		
9		**〇契約に関する説明と納得** 契約の締結，解約又は改定等の際は，利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね，十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご家族あるいはご本人と契約書を読み合わせてその都度疑問点、不安を尋ね説明・納得を図っている。		
10	6	**〇運営に関する利用者，家族等意見の反映** 利用者や家族等が意見，要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け，それらを運営に反映させている。	契約書には、苦情申し立て方法を明記し、玄関には意見箱を設置している。また遠方にいるご家族にはメールにてご意見をお聞きしている。		

自己評価	外部評価	項　目（　2F　　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は，運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け，反映させている。	フロアミーティング、１F,2F,3F共同の全体ミーティングを月に１回行い、職員の意見や提案を聞き情報やケアの統一を図っている。本社職員も出席し、意見の吸い上げも図っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は，管理者や職員個々の努力や実績，勤務状況を把握し，給与水準，労働時間，やりがいなど，各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年一回の考課、面接を行い顧問による職員面談も随時行っている。要望はその都度聞き対応している。また、法人として顧問面談を取り入れておりメンタルヘルスの面でも毎年面談を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は，管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し，法人内外の研修を受ける機会の確保や，働きながらトレーニングしていくことを進めている。	月に一回のホーム内研修、新人研修、ケア向上勉強会、講演会等に参加することによりレベルアップを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は，管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり，ネットワークづくりや勉強会，相互訪問等の活動を通じて，サービスの質を向上させていく取組みをしている。	廿日市のグループホームの会合や職員の相互研修、情報交換を行っている。		
Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で，本人が困っていること，不安なこと，要望等に耳を傾けながら，本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人の思いを汲み取りながら、十分話し合っている。相談し安心、信頼できる関係作りに務めている。		

自己評価	外部評価	項　目（　2F　　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で，家族等が困っていること，不安なこと，要望等に耳を傾けながら，関係づくりに努めている。	入居見学の時点でご家族の意向・希望の把握、不安な事等に対して話し合うようにしている。入居後も面会時など話し合える時間を持ちコミュニケーションのとれる関係作りを目指している。各フロアに携帯が有りいつでも話し合えることができるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で，本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め，他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人、ご家族との要望、ご意見をしっかりとお聞きしている。その際に生活歴や趣味などをお聞きしアセスメントをしミーティングで報告、話し合いをする。そこで関わり方、必要としている支援を出し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は，本人を介護される一方の立場に置かず，暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	出来ることを一緒にし、満足感、安心感、充実感、存在感を持って頂きながら信頼関係を得ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は，家族を支援される一方の立場に置かず，本人と家族の絆を大切にしながら，共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族には、毎月のご様子のお手紙、電話、面会時等で細かいことも含めて報告して、ともに本人を支える関係作りをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう，支援に努めている。	携帯電話を持参され自由にご家族に電話をされている方もいる。また、面会を実施し、ご家族やご友人と交流されている。		

自己評価	外部評価	項　目（　2F　　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し，一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い，支え合えるような支援に努めている。	季節行事や定期的なイベント行事で各自が活躍できる場を提供している。共に支えあいながら、共に楽しみ、共に暮らす仲間として認め合っている。職員も一緒に楽しみながら、それを支えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても，これまでの関係性を大切にしながら，必要に応じて本人・家族の経過をフォローし，相談や支援に努めている。	いつでも電話等で相談して頂くことができる支援をしている。また、ご家族と出会った際は、声を掛け挨拶をしている。		
Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望，意向の把握に努めている。困難な場合は，本人本位に検討している。	本人様の思いを汲み取りながら、ミーティングで共有するようにしている。ご家族には面会、電話等でお話をお聞きしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方，生活環境，これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族、ご本人との聞き取りやアセスメントから把握するようにしている。情報提供があった場合もミーティング、連絡ノートにて伝達している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方，心身状態，有する力等の現状の把握に努めている。	ケアアプリ、連絡ノート等を活用し心身状態や生活ペースを把握し、共有するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項　目（　2F　　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について，本人，家族，必要な関係者と話し合い，それぞれの意見やアイデアを反映し，現状に即した介護計画を作成している。	ケアプランを活用しながら職員がアイディアを出しケアの共有を図っている。担当者会議ではミーティングの議題を挙げ職員全体で話し合いを行っている。また毎日モニタリングを行い現状に即したケアプランとなるよう配慮している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果，気づきや工夫を個別記録に記入し，職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日個別に記録をつけ、フロアで共有している。気付きやケアの工夫は連絡ノートに記入し申し送っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況，その時々に生まれるニーズに対応して，既存のサービスに捉われない，柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	グループホーム３ユニットでイベントを行っている。またホーム行事やボランティアが来られた日に行き来する等、日頃から交流を盛んに行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し，本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進会議で地域の民選委員の方々の提案や助言を頂き交流をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は，本人及び家族等の希望を大切にし，納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら，適切な医療を受けられるように支援している。	月に２回の定期往診と状態変化時の主治医への連絡を随時行っており、緊急時も迅速な対応ができている。ご家族の希望で専門医へ受診している。その際はご家族、又は職員が付き添って受診する。		

自己評価	外部評価	項　目（　2F　　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は，日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを，職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し，個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	職員とかかりつけ医に状況をその都度報告し、適切な受診や看護を受けられるよう支援を行えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際，安心して治療できるように，また，できるだけ早期に退院できるように，病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は，そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に病院のMSWと連携を取り密に連絡を取っている。職員も訪問し状況の把握、相談、情報交換をしている。ご家族とも相談し情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について，早い段階から本人・家族等と話し合いを行い，事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し，地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	かかりつけ医と十分な連携を取りながら対応している。またご家族、ご本人との考え、方針を汲み取りながらその都度話し合いをし思いを確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて，全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い，実践力を身に付けている。	急変時の職員の連携はよく取れているが、新入職員も増えたため繰り返し研修する必要がある。		
35	13	○災害対策 火災や地震，水害等の災害時に，昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに，地域との協力体制を築いている。	年２回の避難訓練を行っている。また、防災委員会を設置しており、地域の消防団との連携を取り協力体制を築いている。		

自己評価	外部評価	項　目（　2F　　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し，誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	研修にて職員に徹底できるようにしている。ご本人の尊厳を傷つけない声掛けをしている。入居者様の情報を他の入居者様の前ではなさないようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり，自己決定できるように働きかけている。	思い出の場所や自宅は行ってみたり、誕生日プレゼントの希望をお聞きしたり、自己決定できる場を日頃から心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく，一人ひとりのペースを大切にし，その日をどのように過ごしたいか，希望にそって支援している。	業務優先ではなく、ご本人が何をしたいかを大切にしている。また１日どのように過ごしたいのかをお聞きするようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	2ヶ月1回の訪問理美容師による、カット・パーマ・毛染め等希望を聞いて行っている。コーディネートや季節感の服装を支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう，一人ひとりの好みや力を活かしながら，利用者と職員が一緒に準備や食事，片付けをしている。	朝食、昼食は職員が献立を考え、出来る入居者様は野菜の皮むき、カット、配膳、盛り付け、味見等を手伝って頂いている。夕食は外注したものを提供している。食事はできる限り職員、入居者様と一緒に談笑しながら食べている。		

自己評価	外部評価	項　目（　2F　　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	食事、水分摂取量を毎日の記録表に記入している。嚥下状態の悪い方はトロミをつけたり、刻み食、ミキサー食、エンシュア等を提供し、必要な栄養確保に気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	朝・昼・夕食後、本人用の歯ブラシで口腔ケアをし、ご自分で出来ない方は援助する。就寝時は義歯ケースの中に義歯を入れ洗浄している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	自尊心を傷つけない様、声掛けをしトイレを促している。排泄チェック表等を活用し排泄パターンを把握し誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	身体を動かしたり水分補給に心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	週2回の入浴を目途に、個々に応じた支援を行っている。また、入浴拒否の強い方等には誘導への声掛けを職員を変えながら行って入浴して頂いている。		

自己評価	外部評価	項　目（　2F　　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて，休息したり，安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々のペースで生活習慣や状況に応じて休んで頂いている。空調管理にも気を付けながら快適に休んで頂いている。眠れない方には、お茶やホットミルクを飲んだり、お話をされたりして過ごしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用，用法や用量について理解しており，服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	かかりつけ医、薬局と連携を取りながら細かく観察し伝達している。薬の用法、用量が変わった際は申送り、連絡ノート等にて職員同士迅速に対応している。		
48		○役割，楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように，一人ひとりの生活歴や力を活かした役割，嗜好品，楽しみごと，気分転換等の支援をしている。	ご家族、ご本人から趣味、嗜好品、楽しみ事を日々の会話の中でお聞きし体調に合わせ実現できるように努めている。他のフロアに行ったり洗濯物を干す等、気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって，戸外に出かけられるよう支援に努めている。また，普段は行けないような場所でも，本人の希望を把握し，家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	近隣の公園への散歩や、お花見等のドライブ外出等、季節を感じることが出来るように支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は，本人がお金を持つことの大切さを理解しており，一人ひとりの希望や力に応じて，お金を所持したり使えるように支援している。	ホームでは、所持金は預からない事としている。本人様の買い物等は、一旦立て替え、まとめてご家族に請求する形をとっている。所持することで安心感のある方にはご家族了承のうえ自己管理して頂く。		

自己評価	外部評価	項　目（　2F　　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり，手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は自由に使用でき、手紙も書かれている方がいる。ご自分でできない方はお手伝いをさせて頂いている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等）が，利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音，光，色，広さ，温度など）がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節を感じて頂くように季節の花や飾りつけをし、居心地よく過ごして頂いている。また、清潔であるよう掃除を徹底し行っている。廊下、フロア内には外出時、イベント行事時の写真を掲示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で，独りになれたり，気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	好きな音楽番組を見られたり、ぬり絵や脳トレレクを行ったりと共用空間で出来る限り、思い思いに過ごせる空間を提供している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は，本人や家族と相談しながら，使い慣れたものや好みのものを活かして，本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人、ご家族との要望、ご意見をしっかりとお聞きし、馴染みの使い慣れた物を置き居心地の良い空間作りを心がけている。また入居者様が安全に過ごせるよう整理整頓に気を付けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして，安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ベッドセンサーの使用やセンサーマット、手摺、エレベーター等があり安全且つ快適に過ごせる様にしている。		

Ⅴ アウトカム項目（　　2F　　）← 左記（　）内へユニット名を記入願います			
56	職員は，利用者の思いや願い，暮らし方の意向を掴んでいる。		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の3分の2くらいの
			③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が，一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は，一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は，職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は，戸外への行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は，その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により，安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
63	職員は，家族が困っていること，不安なこと，求めていることをよく聴いており，信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の3分の2くらいと
			③家族の3分の1くらいと
			④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
65	運営推進会議を通して，地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり，事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は，活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
			③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の3分の2くらいが
			③家族等の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項　目（　　3F　　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
Ⅰ　理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり，管理者と職員は，その理念を共有して実践につなげている。	「ゆっくり　いっしょに　たのしく」をモットーに入居者様が心地よく過ごされている。また、家庭的な雰囲気の中で認知症の対応に気を配りながら行事、お散歩等で季節を感じて頂いている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう，事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	移転して1年が経ち、地域との交流も少しずつ関わり始めている。運営推進会議からとんど焼きや獅子舞のご案内を頂き参加をさせて頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は，実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を，地域の人々に向けて活かしている。	ご家族の相談事は随時行い、地域の方には運営推進会議等で地域のお困りごとの相談に乗っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では，利用者やサービスの実際，評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い，そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催し、行政・民生委員の方々に参加頂いている。問題点・活動状況を資料にまとめ報告し参加者から助言やご意見を頂きより良いサービスができる様にしている。地域の問題や情報も頂いている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り，事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら，協力関係を築くように取組んでいる。	担当者から、最新の情報を頂いたり困難な事例等について相談できる関係にある。		

自己評価	外部評価	項　目（　　3F　　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	**〇身体拘束をしないケアの実践** 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており，玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	フロアと玄関を出入りするドアをパスキーにしており、職員以外は出入りできない。しかし、職員の付き添いによって１F，２F，3Fを自由に行き来できるように心がけている。身体拘束については一定の書式もあり、身体拘束防止委員会も設置し、身体拘束ゼロへの努力・工夫をする。		
7		**〇虐待の防止の徹底** 管理者や職員は，高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち，利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い，防止に努めている。	毎年、虐待防止のホーム内研修を行っている。また虐待防止委員会を設置し、虐待防止に取り組んでいる。		
8		**〇権利擁護に関する制度の理解と活用** 管理者や職員は，日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち，個々の必要性を関係者と話し合い，それらを活用できるよう支援している。	成年後見人を立てて入居されている方もおられる。		
9		**〇契約に関する説明と納得** 契約の締結，解約又は改定等の際は，利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね，十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご家族あるいはご本人と契約書を読み合わせてその都度疑問点、不安を尋ね説明・納得を図っている。		
10	6	**〇運営に関する利用者，家族等意見の反映** 利用者や家族等が意見，要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け，それらを運営に反映させている。	契約書には、苦情申し立て方法を明記し、玄関には意見箱を設置している。また遠方にいるご家族にはメールにてご意見をお聞きしている。		

自己評価	外部評価	項　目（　　3F　　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は，運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け，反映させている。	フロアミーティング、１F,2F,3F共同の全体ミーティングを月に１回行い、職員の意見や提案を聞き情報やケアの統一を図っている。本社職員も出席し、意見の吸い上げも図っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は，管理者や職員個々の努力や実績，勤務状況を把握し，給与水準，労働時間，やりがいなど，各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年一回の考課、面接を行い顧問による職員面談も随時行っている。要望はその都度聞き対応している。また、法人として顧問面談を取り入れておりメンタルヘルスの面でも毎年面談を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は，管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し，法人内外の研修を受ける機会の確保や，働きながらトレーニングしていくことを進めている。	月に一回のホーム内研修、新人研修、ケア向上勉強会、講演会等に参加することによりレベルアップを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は，管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり，ネットワークづくりや勉強会，相互訪問等の活動を通じて，サービスの質を向上させていく取組みをしている。	廿日市のグループホームの会合や職員の相互研修、情報交換を行っている。		
Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で，本人が困っていること，不安なこと，要望等に耳を傾けながら，本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人の思いを汲み取りながら、十分話し合っている。相談し安心、信頼できる関係作りに務めている。		

自己評価	外部評価	項　目（　　3F　　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で，家族等が困っていること，不安なこと，要望等に耳を傾けながら，関係づくりに努めている。	入居見学の時点でご家族の意向・希望の把握、不安な事等に対して話し合うようにしている。入居後も面会時など話し合える時間を持ちコミュニケーションのとれる関係作りを目指している。各フロアに携帯が有りいつでも話し合えることができるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で，本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め，他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人、ご家族との要望、ご意見をしっかりとお聞きしている。その際に生活歴や趣味などをお聞きしアセスメントをしミーティングで報告、話し合いをする。そこで関わり方、必要としている支援を出し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は，本人を介護される一方の立場に置かず，暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	出来ることを一緒にし、満足感、安心感、充実感、存在感を持って頂きながら信頼関係を得ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は，家族を支援される一方の立場に置かず，本人と家族の絆を大切にしながら，共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族には、毎月のご様子のお手紙、電話、面会時等で細かいことも含めて報告して、ともに本人を支える関係作りをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう，支援に努めている。	携帯電話を持参され自由にご家族に電話をされている方もいる。また、面会を実施し、ご家族やご友人と交流されている。		

自己評価	外部評価	項　目（　　3F　　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し，一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い，支え合えるような支援に努めている。	季節行事や定期的なイベント行事で各自が活躍できる場を提供している。共に支えあいながら、共に楽しみ、共に暮らす仲間として認め合っている。職員も一緒に楽しみながら、それを支えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても，これまでの関係性を大切にしながら，必要に応じて本人・家族の経過をフォローし，相談や支援に努めている。	いつでも電話等で相談して頂くことができる支援をしている。また、ご家族と出会った際は、声を掛け挨拶をしている。		
Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望，意向の把握に努めている。困難な場合は，本人本位に検討している。	本人様の思いを汲み取りながら、ミーティングで共有するようにしている。ご家族には面会、電話等でお話をお聞きしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方，生活環境，これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族、ご本人との聞き取りやアセスメントから把握するようにしている。情報提供があった場合もミーティング、連絡ノートにて伝達している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方，心身状態，有する力等の現状の把握に努めている。	ケアアプリ、連絡ノート等を活用し心身状態や生活ペースを把握し、共有するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項　目（　　3F　　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について，本人，家族，必要な関係者と話し合い，それぞれの意見やアイデアを反映し，現状に即した介護計画を作成している。	ケアプランを活用しながら職員がアイディアを出しケアの共有を図っている。担当者会議ではミーティングの議題を挙げ職員全体で話し合いを行っている。また毎日モニタリングを行い現状に即したケアプランとなるよう配慮している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果，気づきや工夫を個別記録に記入し，職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日個別に記録をつけ、フロアで共有している。気付きやケアの工夫は連絡ノートに記入し申し送っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況，その時々に生まれるニーズに対応して，既存のサービスに捉われない，柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	グループホーム３ユニットでイベントを行っている。またホーム行事やボランティアが来られた日に行き来する等、日頃から交流を盛んに行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し，本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進会議で地域の民選委員の方々の提案や助言を頂き交流をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は，本人及び家族等の希望を大切にし，納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら，適切な医療を受けられるように支援している。	月に２回の定期往診と状態変化時の主治医への連絡を随時行っており、緊急時も迅速な対応ができている。ご家族の希望で専門医へ受診している。その際はご家族、又は職員が付き添って受診する。		

自己評価	外部評価	項　目（　　3F　　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は，日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを，職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し，個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	職員とかかりつけ医に状況をその都度報告し、適切な受診や看護を受けられるよう支援を行えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際，安心して治療できるように，また，できるだけ早期に退院できるように，病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は，そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に病院のMSWと連携を取り密に連絡を取っている。職員も訪問し状況の把握、相談、情報交換をしている。ご家族とも相談し情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について，早い段階から本人・家族等と話し合いを行い，事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し，地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	かかりつけ医と十分な連携を取りながら対応している。またご家族、ご本人との考え、方針を汲み取りながらその都度話し合いをし思いを確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて，全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い，実践力を身に付けている。	急変時の職員の連携はよく取れているが、新入職員も増えたため繰り返し研修する必要がある。		
35	13	○災害対策 火災や地震，水害等の災害時に，昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに，地域との協力体制を築いている。	年２回の避難訓練を行っている。また、防災委員会を設置しており、地域の消防団との連携を取り協力体制を築いている。		

自己評価	外部評価	項　目（　　3F　　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し，誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	研修にて職員に徹底できるようにしている。ご本人の尊厳を傷つけない声掛けをしている。入居者様の情報を他の入居者様の前ではなさないようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり，自己決定できるように働きかけている。	思い出の場所や自宅は行ってみたり、誕生日プレゼントの希望をお聞きしたり、自己決定できる場を日頃から心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく，一人ひとりのペースを大切にし，その日をどのように過ごしたいか，希望にそって支援している。	業務優先ではなく、ご本人が何をしたいかを大切にしている。また１日どのように過ごしたいのかをお聞きするようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	2ヶ月1回の訪問理美容師による、カット・パーマ・毛染め等希望を聞いて行っている。コーディネートや季節感の服装を支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう，一人ひとりの好みや力を活かしながら，利用者と職員が一緒に準備や食事，片付けをしている。	朝食、昼食は職員が献立を考え、出来る入居者様は野菜の皮むき、カット、配膳、盛り付け、味見等を手伝って頂いている。夕食は外注したものを提供している。食事はできる限り職員、入居者様と一緒に談笑しながら食べている。		

自己評価	外部評価	項　目（　　3F　　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	食事、水分摂取量を毎日の記録表に記入している。嚥下状態の悪い方はトロミをつけたり、刻み食、ミキサー食、エンシュア等を提供し、必要な栄養確保に気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	朝・昼・夕食後、本人用の歯ブラシで口腔ケアをし、ご自分で出来ない方は援助する。就寝時は義歯ケースの中に義歯を入れ洗浄している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	自尊心を傷つけない様、声掛けをしトイレを促している。排泄チェック表等を活用し排泄パターンを把握し誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	身体を動かしたり水分補給に心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	週2回の入浴を目途に、個々に応じた支援を行っている。また、入浴拒否の強い方等には誘導への声掛けを職員を変えながら行って入浴して頂いている。		

自己評価	外部評価	項　目（　　3F　　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて，休息したり，安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々のペースで生活習慣や状況に応じて休んで頂いている。空調管理にも気を付けながら快適に休んで頂いている。眠れない方には、お茶やホットミルクを飲んだり、お話をされたりして過ごしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用，用法や用量について理解しており，服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	かかりつけ医、薬局と連携を取りながら細かく観察し伝達している。薬の用法、用量が変わった際は申送り、連絡ノート等にて職員同士迅速に対応している。		
48		○役割，楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように，一人ひとりの生活歴や力を活かした役割，嗜好品，楽しみごと，気分転換等の支援をしている。	ご家族、ご本人から趣味、嗜好品、楽しみ事を日々の会話の中でお聞きし体調に合わせ実現できるように努めている。他のフロアに行ったり洗濯物を干す等、気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって，戸外に出かけられるよう支援に努めている。また，普段は行けないような場所でも，本人の希望を把握し，家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	近隣の公園への散歩や、お花見等のドライブ外出等、季節を感じることが出来るように支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は，本人がお金を持つことの大切さを理解しており，一人ひとりの希望や力に応じて，お金を所持したり使えるように支援している。	ホームでは、所持金は預からない事としている。本人様の買い物等は、一旦立て替え、まとめてご家族に請求する形をとっている。所持することで安心感のある方にはご家族了承のうえ自己管理して頂く。		

自己評価	外部評価	項　目（　　3F　　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり，手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は自由に使用でき、手紙も書かれている方がいる。ご自分でできない方はお手伝いをさせて頂いている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等）が，利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音，光，色，広さ，温度など）がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節を感じて頂くように季節の花や飾りつけをし、居心地よく過ごして頂いている。また、清潔であるよう掃除を徹底し行っている。廊下、フロア内には外出時、イベント行事時の写真を掲示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で，独りになれたり，気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	好きな音楽番組を見られたり、ぬり絵や脳トレレクを行ったりと共用空間で出来る限り、思い思いに過ごせる空間を提供している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は，本人や家族と相談しながら，使い慣れたものや好みのものを活かして，本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人、ご家族との要望、ご意見をしっかりとお聞きし、馴染みの使い慣れた物を置き居心地の良い空間作りを心がけている。また入居者様が安全に過ごせるよう整理整頓に気を付けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして，安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ベッドセンサーの使用やセンサーマット、手摺、エレベーター等があり安全且つ快適に過ごせる様にしている。		

Ⅴ アウトカム項目（　　3F　　）← 左記（　）内へユニット名を記入願います			
56	職員は，利用者の思いや願い，暮らし方の意向を掴んでいる。		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の3分の2くらいの
			③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が，一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は，一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は，職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は，戸外への行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は，その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により，安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
63	職員は，家族が困っていること，不安なこと，求めていることをよく聴いており，信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の3分の2くらいと
			③家族の3分の1くらいと
			④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
65	運営推進会議を通して，地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり，事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は，活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
			③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の3分の2くらいが
			③家族等の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

（様式２）

２　目標達成計画

事業所名　グループホーム大野みどりの家

作成日　　令和7年2月17日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点，課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議への利用者、家族の参加が出来ていない。	運営推進会議への利用者、家族の参加。	家族への資料の配布、面会時での資料の配布を行っています。	6か月以内
2	11	各フロアミーティングを合同で行っていなかったので、意見の吸い上げが乏しかった。	各フロアでミーティングを行う。	利用者個々の状態について話し合い、利用者にとって暮らしやすいホーム作りを行う。	3か月以内
3	10	ケアプランの内容の共有をフロアで出来ていなかった。	個々のケアプラン内容の把握に努めるために、職員がケアプランを閲覧できる環境を整える。	ミーティングにて各月ケアプランを一緒にモニタリングする。	6か月以内
4					
5					
6					
7					

注１）項目番号欄には，自己評価項目の番号を記入すること。
注２）項目数が足りない場合は，行を追加すること。